慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

| | |
|---|---|
| Title | テレビ批判の行動的側面に関する実証的研究 |
| Sub Title | |
| Author | 正木, 誠子(Masaki, Nobuko) |
| Publisher | 慶應義塾大学大学院社会学研究科 |
| Publication year | 2020 |
| Jtitle | 慶応義塾大学大学院社会学研究科紀要 : 社会学心理学教育学 : 人間と社会の探究 (Studies in sociology, psychology and education : inquiries into humans and societies). No.90 (2021. ) ,p.100- 103 |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 2019年度博士課程研究支援プログラム研究成果報告 |
| Genre | Departmental Bulletin Paper |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000090-0100 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# テレビ批判の行動的側面に関する実証的研究

正木誠子

平成31年度,「テレビ批判の行動的側面に関する実証的研究」という主題のもと研究を行った。本報告書では，テレビ批判の行動的側面についての規定因を理解するための質問紙調査の結果について述べる。筆者はこれまで，主にテレビ批判に関する態度的側面の検討を行ってきたが，行動的側面についての検討は不十分であった。そのため，本報告書ではテレビ批判の行動的側面に影響を与えうる要因として「周囲の人との人間関係やメディア接触の中でテレビ番組に対する批判意見を見聞きしたことがあるか」という経験に着目した。その結果を以下に報告する。

## 1.　目的

本研究では,「テレビに対する視聴者のネガティブな反応」をテレビ批判と定義する。さらに，その気持ちを抱くに留まることを批判の「態度」，何らかの形で発信することを批判の「行動」に区別する。後者はテレビ番組に対する批判や不満を家族や友人に話したり，SNSで発信することなどを指す。

先行研究ではテレビ批判の態度を規定する要因に関する検討が行われているが（正木，2019；正木，2020），テレビ批判の行動については研究が進められていないのが現状である。しかし，近年ではテレビ番組への批判意見がSNSに投稿されそれが拡散するなど「批判する視聴者」の存在は年々存在感を増しており，テレビ批判の行動を規定する要因を検討することは重要であると考えられる。

以上をふまえ，本研究ではテレビ批判の行動を規定する要因について,「テレビ番組に対する他者の批判意見を見聞きしたことがあるか」という経験に着目した。そのような経験がある人ほど，その意見に感化され，自分も批判的な行動を取りたいと思うのではないかと想定したからである。

なお，質問紙調査を用いてテレビ番組に対する批判的な行動を実際に測ることには限界があるため，本研究では「行動を取りたいと思うか」を検討対象とし，これを「テレビ批判行動意図」と表記する。

## 2.　調査

**期間・対象者**　2020年2月，株式会社クロス・マーケティングのモニター会員300名（男女各150名，20代，30代，40代，50代，60代が60名ずつ，平均年齢44.8歳，SD＝13.65）を対象に実施した。

**主な質問項目**

(1) テレビの「中立性・公平性の欠如」「非礼・不謹慎な内容」に対する批判行動意図を尋ねる項目

回答者には以下の場面を想定してもらった。

| |
|---|
| 〔中立性・公平性の欠如〕ある法案に関する報道で，反対派の意見やデモの様子ばかりを取り上げており，スタジオにも反対派のコメンテーターを招いて話を聞いている。賛成派の意見は取り上げていないように思える。 |
| 〔非礼・不謹慎な内容への批判態度〕夜8時頃のバラエティ番組で，司会者が，お笑い芸人の容姿や身体的なことをからかって笑いを取る。 |

この場面を見た後に以下の行動を取ろうと思うか（行動意図),「4. 取ると思う」〜「1. 取らないと思う」の4件法で尋ねた。

| |
|---|
| 1.　SNSや新聞の投書欄，BPO（放送倫理・番組向上機構）に番組に対する感想を投稿する |
| 2.　周りの人（家族や友人，同僚など）に自分の感想を話す |
| 3.　チャンネルを変えたり，テレビを消す |
| 4.　テレビに向かって独り言を言ったり，つっこみを入れる |
| 5.　周りの人（家族や友人，同僚など）に，このような番組の視聴をやめるようすすめる |
| 6.　SNSやインターネット掲示板で番組について検索する |

(2) 他者の批判意見の見聞き経験

二つの番組場面それぞれについて，他者（周囲の人々や接触するメディアを含む）の批判意見を見聞きした経験があるかどうかを「1. ない」「2. ある」の2件法で尋ねた。以下,「見聞き経験」と表記する。

| |
|---|
| 1.　家族が批判的な意見を言っていた・(SNSなどに）書いていた |
| 2.　親しい友人が批判的な意見を言っていた・(SNSなどに）書いていた |
| 3.　それほど親しくない知人・友人が批判的な意見を言っていた・(SNSなどに）書いていた |
| 4.　SNS上で批判的な意見を見た |
| 5.　テレビ番組の中で批判的な意見を見た |
| 6.　新聞で批判的な意見を見た |
| 7.　インターネットニュースで批判的な意見を見た |

(3) 統制変数　デモグラフィック変数（年齢・性別)。

## 3.　結果

**因子分析**　「見聞き経験」を尋ねる7項目について探索的因子分析（最尤法・promax法）を行ったところ，中立性・公平性の欠如と非礼・不謹慎な内容ともに同様の因子構成になった。それぞれにおいて各因子の負荷が高い項目ごとに平均値を取り，変数化した。

表1　中立性・公平性の欠如に関する見聞き経験の因子分析結果

| | 1 | 2 | 共通性 |
|---|---|---|---|
| **第1因子　メディアでの見聞き経験（$\alpha$=.79, 平均値=1.38, $SD$=0.37）** | | | |
| インターネットニュースで批判的な意見を見た | **0.81** | −0.03 | 0.63 |
| テレビ番組の中で批判的な意見を見た | **0.71** | −0.05 | 0.47 |
| SNS上で批判的な意見を見た | **0.67** | 0.08 | 0.51 |
| 新聞で批判的な意見を見た | **0.57** | 0.05 | 0.35 |
| **第2因子　周囲の人からの見聞き経験（$\alpha$=.74, 平均値=1.16, $SD$=0.31）** | | | |
| 親しい友人が批判的な意見を言っていた・(SNSなどに）書いていた | −0.14 | **0.97** | 0.81 |
| 家族が批判的な意見を言っていた・(SNSなどに）書いていた | 0.13 | **0.54** | 0.38 |
| それほど親しくない知人・友人が批判的な意見を言っていた・(SNSなどに）書いていた | 0.29 | **0.48** | 0.46 |

表2　非礼・不謹慎な内容に関する見聞き経験の因子分析結果

| | 1 | 2 | 共通性 |
|---|---|---|---|
| **第1因子　メディアでの見聞き経験（$\alpha$=.81, 平均値=1.31, *SD*=0.36）** | | | |
| インターネットニュースで批判的な意見を見た | **0.94** | −0.12 | 0.76 |
| SNS上で批判的な意見を見た | **0.74** | 0.06 | 0.61 |
| テレビ番組の中で批判的な意見を見た | **0.57** | 0.91 | 0.50 |
| 新聞で批判的な意見を見た | **0.40** | 0.20 | 0.30 |
| **第2因子　周囲の人からの見聞き経験（$\alpha$=.81, 平均値=1.16, *SD*=0.31）** | | | |
| 親しい友人が批判的な意見を言っていた・（SNSなどに）書いていた | −0.07 | **0.89** | 0.72 |
| それほど親しくない知人・友人が批判的な意見を言っていた・（SNSなどに）書いていた | 0.07 | **0.69** | 0.54 |
| 家族が批判的な意見を言っていた・（SNSなどに）書いていた | 0.13 | **0.65** | 0.55 |

**重回帰分析**　中立性・公平性の欠如，非礼・不謹慎な内容それぞれについて，独立変数として見聞き経験（2つ），従属変数としてテレビ批判行動意図（6つ），統制変数として性別と年齢を投入した重回帰分析を行った。その結果，表2と表3の通り，中立性・公平性の欠如における「周囲の人からの見聞き経験」から「チャンネルを変えたり，テレビを消す」の関係を除き，統計的に有意な正の効果があることが明らかになった。

表3　中立性・公平性の欠如に関する見聞き経験を独立変数とした重回帰分析

| 従属変数 | SNSや新聞の投書欄，BPOに番組に対する感想を投稿する | 周りの人（家族や友人，同僚など）に自分の感想を話す | チャンネルを変えたり，テレビを消す | 「テレビに向かって独り言を言ったり，つっこみを入れる | 周りの人に，このような番組の視聴をやめるよう勧める | SNSやインターネット掲示板で番組について検索する |
|---|---|---|---|---|---|---|
| メディアでの見聞き経験 | .15** | .25*** | .17** | .23*** | .18** | .31*** |
| 周囲の人からの見聞き経験 | .28*** | .23*** | .08 | .25*** | .24*** | .19** |
| 年齢 | −.12* | .04 | .06 | .04 | .02 | −.14** |
| 性別（男性=0, 女性=1） | −.10 | .02 | .06 | .02 | −.04 | −.06 |
| $R^2$ | .16*** | .16*** | .05** | .16*** | .12*** | .21*** |
| 調整済み$R^2$ | .15 | .14 | .03 | .14 | .11 | .20 |

表4　非礼・不謹慎な内容に関する見聞き経験を独立変数とした重回帰分析

| 従属変数 | SNSや新聞の投書欄，BPOに番組に対する感想を投稿する | 周りの人（家族や友人，同僚など）に自分の感想を話す | チャンネルを変えたり，テレビを消す | テレビに向かって独り言を言ったり，つっこみを入れる | 周りの人に，このような番組の視聴をやめるよう勧める | SNSやインターネット掲示板で番組について検索する |
|---|---|---|---|---|---|---|
| メディアでの見聞き経験 | .20** | .29*** | .30*** | .27*** | .24*** | .30*** |
| 周囲の人からの見聞き経験 | .27*** | .32*** | .22*** | .29*** | .35*** | .24*** |
| 年齢 | −.10 | .03 | .21*** | .12* | .09 | −.09 |
| 性別（男性＝0, 女性＝1） | −.02 | .13* | .10 | .09 | .00 | .04 |
| $R^2$ | .19*** | .30*** | .24*** | .26*** | .12*** | .25*** |
| 調整済み$R^2$ | .18 | .29 | .23 | .25 | .11 | .24 |

## 4.　まとめ

重回帰分析の結果，中立性・公平性の欠如に関する見聞き経験を独立変数とした場合も，非礼・不謹慎な内容に関する見聞き経験を独立変数とした場合も，概して見聞き経験がテレビ批判行動意図に与える影響が強いことが明らかになった。従って，他者の批判意見を見聞きしたことがある人ほど，批判行動意図が強いという傾向が示唆された。しかし，本研究で行った分析は見聞き経験のみを独立変数としていたため，今後の課題として他にも独立変数を加えた上で，これらの影響関係を検討することが求められる。

さらに本研究では，統制変数として投入した性別と年齢がテレビ批判行動意図に与える影響にも注目したい。具体的には，中立性・公平性の欠如においては，若いほど「SNSや新聞の投書欄，BPOに番組に対する感想を投稿する」「SNSやインターネット掲示板で番組について検索する」という行動意図が強いことが示された。若者の方がSNSなどのツールに親しんでおり，中立性・公平性の欠如に関する場面に関する批判をSNSなどで発信しやすいことが理由として考えられる。

また，非礼・不謹慎な内容においては，高齢であるほど「チャンネルを変えたり，テレビを消す」というテレビ視聴からの離脱行動意図や，「テレビに向かって独り言を言ったり，つっこみを入れる」といった他者を巻き込まないような行動意図が強いことが示された。また非礼・不謹慎な内容については，女性の方が「周りの人（家族や友人，同僚など）に自分の感想を話す」という行動意図が強いことも明らかになった。女性の方が日常的に周囲とのコミュニケーションを取る傾向があり，その題材として非礼・不謹慎な内容を表すようなバラエティ番組が取り上げられやすいと考えられる。

### 文献

正木誠子（2019）．テレビ批判態度の規定因：テレビが他者に与える影響の見積りと第三者効果との関連を中心に　社会情報学7(3)，pp. 1–16.

正木誠子（2020）．テレビ視聴に関する諸要因がテレビ番組に対する批判的な態度に与える影響　マス・コミュニケーション研究96, pp. 83–100.